

平成 21 年 5 月 9 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006 年度 ～ 2009 年度
課題番号：18390200
研究課題名（和文） 介護予防に向けた社会疫学研究—健康寿命をエンドポイントとする大規模
コホート研究
研究課題名（英文） Social epidemiological studies toward healthy aging—a large scale
cohort study focused on healthy longevity
研究代表者
近藤 克則（KONDO KATSUNORI）
日本福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：20298558

研究分野：社会疫学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：介護予防，社会疫学，健康の社会的決定要因，健康格差，ソーシャル・キャピタル，コホート研究

1. 研究計画の概要

本研究は、健康の社会的決定要因に着目して高齢者の介護予防に向けた科学的な知見を明らかにするものである。

社会経済的な格差による「健康格差」が日本にも見られること、生活習慣だけでなく心理的・社会的因子も不健康の危険因子であることを報告してきた。

具体的には、高齢者約 4 万人の大規模データを活用し、コホート研究や国際比較研究などを通じて、(1)生活習慣のみならず、「うつ」など心理的因子、「閉じこもり」や「家族関係・社会ネットワーク」「所得」「教育歴」など社会経済的因子が「健康寿命の喪失（要介護状態+死亡）」の危険因子であることを明らかにすること、(2)その影響プロセスの解明に迫ること、(3)個人レベルの社会経済的因子だけでなく社会関係資本（ソーシャル・キャピタル：地域における信頼感・互助性の規範、ネットワークの豊かさ）など、コミュニティレベルの因子も関連していることを検証することを目指すものである。

本研究は、「健康な社会」や「ポピュレーション・ストラテジーに基づく介護予防政策」の開発を志向した社会疫学的な基礎研究である。

2. 研究の進捗状況

(1)健康格差の実証

高齢者 3.3 万人を対象とした横断分析によって、日本にも最大約 7 倍もの健康格差があることを実証し、著書として出版した。

(2)コホート研究

ある一時点の横断分析では、低所得など社会的要因が要介護状態の原因なのか、もともと障害などがあったので低所得に留まったのか、因果関係の方向が分離できない。そこで 2003 年度と 2006 年度に実施した大規模調査のデータと、その後の追跡データを結合したデータベースを作成しコホート研究を進めた。その結果、介護保険料区分で所得段階を分け、約 2.8 万人の 4 年間の死亡と要介護認定について追跡したコホート分析によって、男性の最低所得層では、最高所得層に比べ死亡率や要介護認定を受ける割合が 2-3 倍も高い健康格差があることなどを明らかにした。

(3)コミュニティレベルの因子の研究

コミュニティレベルの因子に関わる分析として、人口密度が低い地域に「閉じこもり」が多いこと、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が乏しい地域に暮らす高齢者に健康状態が良くない者が多いこと、相対的な社会的な位置が低い人で健康指標が悪い傾向があることなどについて報告した。個人レベルの因子だけでなく、コミュニティレベルの因子も、健康指標と関連していること、つまり個人を対象とした支援策だけでなく、コミュニティレベルの対策があり得ることなどを実証的に明らかにした。

(4)政策への応用に向けた理論研究

健康の社会的決定要因の重要性を前提にしたヨーロッパ諸国の政策動向を紹介しながら、「健康によい社会政策」についてレビューをした連載論文を公表した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している

(理由)

国内外の学会や雑誌、書籍として発表した内容は、学界やマスコミから、予想以上に注目された。延べ10を超える学会から特別講演やシンポジストとして報告の機会を与えられただけでなく、国際学会・シンポジウムで3つ、国内学界で3つの賞を受賞した。平成21年度に開かれるハーバード大学のシンポジウムに3名招聘されている。書籍は、学術図書として翻訳出版に向けた助成を受けられることも決定している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) コホート研究：追跡データを結合したデータベースが作成できたので、「要介護リスク」と「要介護リスクのリスク (cause of cause)」に関するコホート研究を進める。

(2) コミュニティレベルの因子の研究：ソーシャル・キャピタルに関する基礎研究とともに、介入研究を含む応用研究を進める。

(3) 政策への応用に向けた理論研究：ヨーロッパの政策動向など、社会政策への応用に向けた研究を進める

(4) 研究成果の発表：国内外での学会、雑誌、書籍（英文、新書）、マスコミなど、多様な媒体を通じて、研究成果を公表する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 約 35 件)

- Naoki Kondo, Ichiro Kawachi, Hiroshi Hirai, Katsunori Kondo, S V Subramanian, Tomoya Hanibuchi, and Zentaro Yamagata: Relative deprivation and incident functional disability among older Japanese women and men: Prospective cohort study. *Journal of epidemiology and Community Health* (in press)
- Chiyo Murata, Katsunori Kondo, Hiroshi Hirai, Yukinobu Ichida, Toshiyuki Ojima: Association between depression and socio-economic status among community-dwelling elderly in Japan : The Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES). *Health and Place* 14 (2008) : 406-414, 2008
- 平井寛・近藤克則：高齢者の健診に関連する要因—3地域類型間での比較—。農村計画学会誌。27巻論文特集号 2009年2月。p 215-220
- 近藤克則：健康を決定する要因—社会的要因とライフコース—。体育の科学 (日本体育学会編) 58 (12) : 842-846, 2008

- 近藤克則：「健康格差」の視点が格差論にもたらすもの。社会政策研究 8 : 53-72, 2008
- 平井寛・近藤克則・埴淵知哉：高齢者の「閉じこもり」割合と居住地の人口密度の関連の検討。老年社会科学 30 (1) : 69-78, 2008
- 平井寛・近藤克則：高齢者の町施設利用の関連要因分析 介護予防事業参加促進にむけた基礎的研究。日本公衆衛生雑誌 55 (1) : 37-44, 2008 他

[学会発表] (計 約 30 件)

- 近藤克則：地域保健医療福祉の課題—特に高齢者の健康格差 について、シンポジウム「公衆衛生の課題—格差社会と公衆衛生—」, 日本学術会議 共催, 福岡国際会議場, 2008. 11. 06
- Ojima T, Murata C, Shibata Y, Tsutsui H, Hirai H, Kondo K : Sports participation and longevity : the AGES project cohort study. The 7th World Congress on Aging and Physical Activity, *J Aging Phys Act* 16 (suppl) : S219, 2008. 7. 26-29, Tsukuba, Japan
- Jun Aida, Tomoya Hanibuchi, Miyo Nakade, Hiroshi Hirai, Katsunori Kondo : Effects of Vertical and horizontal social capital on oral health. 86th General Session and Exhibition of the International, American, and Canadian Associations for Dental Research. 2008. 7. 5, Tronto
- Chiyo Murata : Barriers to care among the elderly in Japan (口演) . 第2回アメリカ医療経済学会 (ASHE), 2008. 6. 21-26, Durham, USA 他

[図書] (計 8 件)

- 近藤克則編：検証『健康格差社会』—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査。医学書院, 2007
- Katsunori Kondo : Social Relationships and Health. *Health and Social Disparity—Japan and Beyond* : 182-207, Trans Pacific Press, 2009
- 近藤克則：社会関係と健康。川上憲人・小林廉毅・橋本英樹：編集, 社会格差と健康 社会疫学からのアプローチ : 163-185, 東京大学出版会, 2006 他

[その他]

- 高齢男性、低所得だと死亡率3倍 朝日新聞 2008. 11. 08
- 福祉の未来を考える ハートネットTV (2) 「fukushi 調査団がゆく」 NHK 教育 2008. 07. 29 20:00~20:30 他